

戸山ヶ原（その1）

今我々が住んでいるのは、東中野で中野区ですが、小滝橋の向こう側は新宿区です。そこで今回から、この隣接した場所の今昔を調査する事にしました。

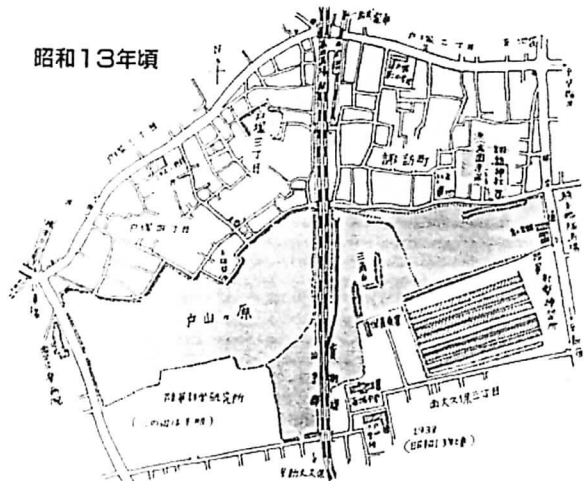
最初に選んだのが「戸山ヶ原」です。濱田熙（ヒロシ）さん（後述）という方が書いた『記憶画・戸山ヶ原』という50頁の画集があり、その中には濱田さんが記憶をたどり描いた戸山ヶ原の風景があります。当時を知る小生にとつては、全くその通りの絵を見て感動しました。

それでは「戸山ヶ原」はどこにあったのか。現在の高田馬場四丁目、百人町四丁目、大久保三丁目の三つの町にまたがる広大な面積を占めていました。濱田さんの画集の冒頭に、東京生まれの者は「兎追いし彼の川」と表現される故郷はないが、「イナゴ追いし彼の原」というのが故郷「戸山ヶ原」でしたと書かれています。

濱田熙氏（大正11年生まれ）

昭和19年、東京美術学校卒業

尚、この画集の原画は新宿区立新宿歴史博物館に保管されています。



「戸山ヶ原」周辺の地図
（『記憶画・戸山ヶ原』濱田熙著より）

戸山ヶ原（その2）

濱田さんは『戸山ヶ原』という記憶画の中に、戸山ヶ原の歴史について詳述されています。



戸山ヶ原から山手線の土手を望む（昭和初期撮影）

天正十八年（一五九〇年）徳川家康の江戸入国に伴って、伊賀者の鉄砲隊は新宿一帯に布陣すると共に、この地の知行を与えられました。慶長7年（一六〇二年）將軍綱吉時代に鉄砲隊は現在

の西大久保地域に集められ、百人組大縄屋敷と呼ばれ、今日の百人町の語源と言われています。

さて戸山ヶ原は小滝橋を渡って、新宿消防署から山手線を挟んで向かい側まで、現在の百人町三丁目から大久保三丁目までの広大な原野でした。当時『戸山ヶ原』は陸軍の用地であって、射撃場という特別な場所以外は一般の人に自由に開放されていました。近辺の人にとっては憩いや散策の場所であり、子どもには格好の遊び場所でもありました。明治・大正期には有名な文壇や画壇の文化人がよくこの戸山ヶ原を題材にしているのが見受けられる、と濱田シヨさんは説明されています。

現在はマンション、病院、学校等が建ち道路も整備され、快適な住宅団地となり、昔日の面影は全く無くなりました。

